

## 参考様式B5(自己評価等関係)

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーキッズ		
○保護者評価実施期間		R7年11月15日	～ R7年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間		R7年11月15日	～ R7年12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月12日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数での療育で個々のニーズに対応しやすい。	小学生の利用児童が少なかったため、刺激の少ない環境で宿題や机上課題に取り組むことができた。	少人数での療育の特性を活かし、児童一人ひとりの特性や課題、当日の状態を職員間で共有しながら、活動内容や小集団の編成、関わり方を柔軟に調整していく。
2	プログラムが固定化しないように工夫している。	児発管の助言のもと、保育士等が活動内容の立案を行い、支援者間で検討している。児童が飽きないよう、工夫をこらしながら療育的な効果も存分に得られるものを考えている。	ペアでの活動がメインであったので、来年度は児童の状況に応じて、人数を増やして活動し、集団適応を目指していくようになたい。
3	多機能事業所であるため児童発達支援の児童とも交流がはかれる。	ペアではできない遊びや活動を幼児と共にを行うことで、ルールのある遊びなども体験する機会を設けている。 異年齢との関わりで、言葉遣いや思いやりの気持ちを育てる機会となっている。	来年度は利用者の年齢層に変化があるが、引き続き幼児や同グループの別の放課後等デイサービスの中高学年の児童との交流の機会をもち、言葉遣いに気を付けるなどのソーシャルスキルを身に着けたり、新しい遊びに挑戦したりする経験を重ねたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングや家族支援など実践的な支援が不十分。	個別対応が必要なケースが多く、全体として取り組むことが困難であった。 保護者と情報共有する手段や機会も限られているため、きょうだい児の支援にまで至っていない。	・面談だけではなく、実際のお子様のようす、支援者の声掛けをご覧いただく療育参観の機会を定期的に設ける。 ・きょうだい児の支援については、家庭訪問や事業所内での相談援助ができるよう実施方法を検討する。
2	地域に開かれた運営ができていない。	・現在の職員体制やサービス提供時間では取り組みは困難である。 ・児童のプライバシー保護の観点から実施のイメージが持てない。	・事業所に地域住民を招くような取り組みは現実的ではないが、SNSなどを活用して、有益な情報の発信に努めたい。
3	地域の児童との交流の機会が不十分。	・放課後の短い時間を使って、日常的に交流というのは現実的ではない。 ・児童館や学童などの施設と放課後等デイサービス事業所の横の繋がりがそもそもない。また事業所のある校区の児童ばかりが利用している訳ではないため、地域の児童との交流が利用児童にとってどれほど療育的効果があるのかは慎重に判断すべきと考えている。	長期休みの際には、地域の児童センターや図書館、公園に遊びに行き、限定的ではあるが地域のこどもたちとの交流をはかる。